



準備物

- ・ We can!1 デジタル教材
- ・ プロジェクター
- ・ スクリーン
- ・ 写真カード2種類 (画用紙貼り付け用, 黒板掲示用)

1	<p>教師によるデモンストレーションを見て、単元のゴールを知る。</p> <p>① 第三者 (本学級の担任) のためのメニューを考える。</p> <p>② “What would you like?” “I’d like chocolate cake.”のように、レストランの店員 (ALT) と1つずつやり取りをする。</p> <p>③ 店員から渡された料理を画用紙に貼る。</p> <p>④ MEAL 名を付ける (例: GREAT MEAL)。</p>
2	<p>本時のめあて「レストランで使う英語の発音をしっかり聞いてまねしよう」を確認する。</p>
3	<p>料理を表す英語を ALT のあとに続けて発音する。</p> <p>※ French fries, curry and rice, pizza のように、日本語の言い方と違うものを適宜取り上げたり、教師がカタカナ発音をしたりしながら、音声面の違いに気づくことができるようにする。</p>
4	<p>キーワードゲームをする。本時のめあてを守って活動するようにする。</p>
5	<p>We can!1 デジタル教材の動画を視聴して、外国のいろいろな料理について知る。</p> <p>食べたことがあるかを思い出したり、食べてみたいか (例: エスカルゴ) を考えたりする。</p>
6	<p>ふりかえる (音声面の気付き, はっきりした声で発音しようとしたか, 今後したいこと等)。</p> <p>数名発表し, 全体で共有する。</p>
7	<p>本単元ではレストランで「誰かのためのメニューを考え注文する」ということを伝える。</p>

「誰かのために」のところは、自分→友達→家族というように、自分自身→目の前の相手→その場にはいない第三者と、他者意識につなげていきたいと考えている。

本時の終末での子どもの思いは「自分のため！」が主だった。これは当然の反応とも言える。その反応を見て、次時で「自分が食べたいメニューができた」という満足感を味わわせることが必要であると改めて感じた。

「自分のため」のメニューを考えて注文する活動を行いながら、レストランで使う英語に慣れ親しんでいくなかで、メニューを組み合わせていくことの楽しさや組み合わせ方の工夫 (栄養バランス等) に気付くことができるようにしたい。

# 5年生 外国語活動「What would you like?」第1時

新年始まって最初の外国語活動がありました。今年も楽しみながら、英語をしっかりと聞いたり発音したりする姿、友達とかかわっていこうとする姿を期待しています。

## 〈使った英語〉

**What would you like? I'd like chocolate cake.**  
**French fries, curry and rice, pizza, omelet など、**  
**料理を表す英語**



5の2担任の原田先生のために考えたメニュー。  
喜んでくれるでしょうか。

単元のゴール「だれかのためのメニューを考えて注文しよう」に向け、料理を表す英語をくりかえし聞いたり、マイルズ先生のまねをして発音したりしました。



キーワードになっている料理名が出てくるかどうか注意深く聞いていました。



## 気づきや感想

- みそ汁が英語だと「ミソスー」になるとわかった。
- プリンが最後に「グ」がついたり、ケーキの「キ」が「ク」になったりしていて日本語とちがった。
- ホットドッグやソーセージは音がにっていた。
- 本物のレストランで英語を使って注文してみたい。
- フランスでカタツムリを食べると知り、ビックリしました。日本にもカレーやフルーツポンチはあるけど、本場（インドやハワイ）の味を食べてみたいです。

外国のいろいろな料理についての動画を見ました。初めて知る料理もありました。

